

○第45回（平成29年1月17日）評価委員会評価

今年度の連携排砂は、6月25日から6月27日にかけて実施された。

出し平ダムからの排砂量は、目標排砂量29万 m^3 、想定変動範囲の14万 m^3 から38万 m^3 に対し、実績は30万 m^3 となる結果となった。

また、宇奈月ダムにおいて20万 m^3 の土砂流出があった。

連携排砂による一時的な環境の変化はあるものの、9月以降の調査結果から水質、底質及び生物相に対して大きな影響を及ぼしたとは考えられない。

◇水質調査について

湛水池では、

- ・概ね過去の測定値の範囲内であった。

河川では、

- ・連携排砂時において、出し平ダム直下のBOD、COD、及び宇奈月ダム直下のSS、CODが既往の観測平均値を上回った。9月以降の調査結果から、水質、底質及び生物相に対して大きな影響を及ぼしたとは考えられない。
- ・ダムを通過することによる水質変化について考察すること。

海域では、

- ・代表4地点（C点、A点、河口沖、生地鼻沖）において、概ね過去の測定値の範囲内であった。
- ・ORPの還元状態の継続時間や夜間、悪天候時の調査方法を検討すること。

◇底質調査について

湛水池では、

- ・概ね過去の測定値の範囲内であった。

河川では、

- ・概ね過去の測定値の範囲内であった。

海域では、

- ・連携排砂後には一部地点において、全窒素、ORP、硫化物が過去の測定範囲を外れる値であったものの、9月においては過去の測定範囲内であった。
- ・底質調査結果については、これまでと異なるデータが得られていることから、データの精査と考察を行うこと。

◇水生生物調査について

- ・河川では付着藻類、海域では植物プランクトンの生物相の変化が見受けられていることから、引き続き調査検討が必要である。

◇大粒径土砂の移動状況調査について

- ・宇奈月ダム貯水池における下流域及び中流域の一部において、大粒径土砂の移動状況を確認することができたものの、より実態を把握できるよう、引き続き精度向上に努め調査のうえ、対策案を検討のこと。

◇今後の留意点

- ・連携排砂等の実施については、今回の審議内容を踏まえ、次年度の排砂計画に反映させること。
- ・宇奈月ダムから多くの土砂が流出し易い状態となったことから、今後、下流に影響が少ない方策について検討するとともに、土砂収支の把握に努めること。